



# 夢の実

佐賀大学理工学部同窓会会報

2004.10.1

No.6



## 「理工学部の新しい船出」

理工学部長 西河 貞捷

平成16年4月の国立大学の独立行政法人化に伴い、国立大学法人佐賀大学となり、理工学部も新しい帆をあげました。急激な荒波への船出であり、従来の学部運営とは異なり、帆に多くの穴があいていることに初めて気がついています。まず学部運営の経費です。佐賀大学は予算規模で全高等教育・研究の約1/100の経費で運営されています。運営費交付金は昨年とほぼ同じで、原則的に大学の判断で使用することができるようになりました。しかしながら、教育研究費の2割が学長裁量経費となり、理工学部の教育研究の現場（講座、教員）で使用できる経費が1/2、1/3に激減される状況が生じました。結果的には、この2割の学長裁量経費は各学部の特徴を生かすべく、学長より還元されました。これを学内COE経費と言っています。これをどのように有効に予算化するかが問題です。企画運営会議でかなりの議論の末、理工学部では、基盤経費、公募研究経費、理工独自の教育研究経費に分類しました。公募型研究では、多くの研究テーマの提案がありましたが、成果が大いに期待できそうなプロジェクトを選定しました。この成果は来年1月頃に報告をいただき、経費継続か中断かの判断をしなければなりません。独自の教育研究では、「国際パートナーシッププログラム」と「大学院博士後期課程の充実」を取り上げました。これらの成果も平成16年度中に報告書をまとめる予定にしております。それでも経費に関する難題が次から次に噴出してきている状況が続い

ております。理工学部の特質が発揮できる予算を今後さらに慎重且つ迅速に検討する必要があります。次は、人事です。教育に携わる教員をどのような理念に基づいて配置するかは、理工学部の学科によって異なります。しかしながら、大学の主要構成員である学生の立場に立った、教員人事がなされなければなりません。勿論、教育と研究が大学の両輪でありますので、教員の研究活動が重要な人事の要素であることは当然です。人事を行うにあたり、学科長より文書でその理由を提出して頂き、学科の人事方針に揺らぎがないことを明確にしております。それでも、妥当な人事であるかどうかの判断は、ある程度の時間経過が必要です。人事は理工学部の将来を決める要であることを、学部の全教員が認識することが重要であると考えます。

理工学部において、学力保証できる学生の教育と最先端の科学技術研究が調和しながら、社会に貢献できる人材を輩出し、新たな若者を受け入れる健全な循環が創造されることを目標に、同窓生の皆様の協力を得ながら、運営してまいりたいと考えています。

平成16年10月に佐賀大学の東京オフィス（国立大学法人佐賀大学東京オフィス：東京都港区芝浦3丁目3番6号キャンパス・イノベーションセンター：電話03-5440-9079）が設置されました。理工学部の同窓生の皆様にも、一度足をお運びいただき、活動状況をご覧ください。



# 同窓生のものづくり

Vol.2

今回の特集では、理工学部出身の同窓生（数物情報系、化学系、機械系、電気電子系、建設系の学科・大学院グループからそれぞれ1名ずつ）に執筆をお願いいたしました。綴られる各分野での「ものづくり」やその思いなどを通し、同窓生みなさんの活動への契機や新たな交流の機会となれば幸いです。

## 化学系

### 「住みよい生活環境 づくりのために」

（助）佐賀県環境科学検査協会 石橋 英明

（工業化学専攻・H10年修士修了）

私が現在勤務している（助）佐賀県環境科学検査協会は環境関連の検査、分析、測定、調査業務を行っており、その中で私はダイオキシン類の分析業務に従事しております。具体的には高分解能の二重収束型ガスクロマトグラフ質量分析計でのダイオキシン類の測定、データ解析を行う一方で環境省が新たに取り組んでいる簡易測定法の導入にも携わっています。化学とは全く無縁の仕事に就いている同窓生もいる中で、私は大学で学んだ化学の知識を生かせるような仕事ができることを幸せに思っています。

よく知られている通り、ダイオキシン類は生物に対して非常に毒性が強く、社会的関心も高いため、これらを規制し排出量を低減させることは急務であります。私が直接排出量を低減させることは出来ませんが、私が測定、解析したデータはその一翼を担うものと確信しており、自分自身の仕事に誇りを持つと共に責任の重大さを感じています。

これからも佐賀大学で学んだことを活かし、さまざまな技術を身に付け、社会的信頼性を向上させ住みよい生活環境づくりに貢献できるように努力していきたいと思えます。



## 機械系

### 「『車好き』の私としごと」

ダイハツ工業(株) 中出 暢也

（機械工学専攻・H10年修士修了）



私の所属する部門は、自動車の車体骨格の最適化を検討するところで、先行技術開発を検討し、いかに量産化に結びつけるかといった内容に取り組んでいます。

ここでいう、「最適車体骨格」とは、自動車車体に求められるさまざまな目標性能に対し、いかにコスト・質量抑制を行い、満足するかということの意味します。

ただし、量産化されていない新技術に対しての技術および生産課題を全て網羅し、その課題を完全にクリアする必要がありますので、多大な時間・費用を要する場合がございます。よって、自分の手がけた新しい技術開発が、無事、量産化に至った場合の感動は言葉で言いあらわせないものがあります。

小学生の頃から始めたラジオコントロールカーをきっかけに、4輪車に興味を持ち、はや20数年。社会人としては、まだまだ未熟ですが、「車好き」という情熱に関しては、そこそこのおっさん(!?)と自負する私。今後も、この情熱を忘れることなく、さらに高め、大学時代に学んだ専門知識を活かし、少しでも資源の有効活用に貢献できる技術開発に取り組んでいきたいと思っています。

## 「学生時代には 味わえないものづくり」

三菱電機(株)モバイルターミナル製作所  
無線技術部技術第二課 生島 貴之

(電気工学科・H1年卒業)

老若男女問わず誰もが所持する携帯電話ですが、まだまだ機能・サービスなど日進月歩の勢いで進化しており、今後どのような携帯電話が登場するか誰もが楽しみなはず。この携帯電話の無線部開発に携わっている私が、学生時代には味わえなかった世界を少しご紹介いたします。たとえば、中長期的な経営判断に基づく企画・研究開発から設計開発・製造・品質管理・販売など各部門間でプロジェクトを構築し、短期間で携

帯電話を作り上げていきます。それゆえ、私の担当した部分が不具合を起こした場合、社内や顧客(オペレータやエンドユーザ)への処置は本当に厳しく、学生時代には味わえない辛さ・難しさがあります。また、携帯電話内部の無線部分に対する興味に関して、家族や友人など誰もが「???」といった反応しか返ってきません。結局、自分や仲間達が必死で苦労したところは話題にも挙がらず寂しい限りですが、最新の無線技術、半導体技術や実装技術など努力して開発した自社携帯電話を町で見掛けると嬉しくなり、学生時代には味わえない喜びを感じます。このような自己満足の世界は、佐賀大学OBの多くの方々にきっと共感して頂けるとおもいます。(私は採用活動を通じて佐賀大学(電気電子、機械工学科)に毎年お邪魔しております。今後もよろしくお願ひします。)

## 建設系

## 「ドレミの土木、 ソラシドソフト」

(株)フォーラムエイト 井口 真一

(システム生産科学専攻・H11年博士修了)

土木技術者支援のソフトハウスに入社して早6年が経ちました。その間、仮設構台、橋台、3D骨組の設計・解析アプリケーション(AP)の開発に携わり、今では土木自体から離れ、テスターとしての日々を過ごしています。

テスターとはなかなか聴きなれない言葉だと思しますので簡単に説明いたしますと、「近年の複雑化したWINDOWSアプリケーション開発に伴う不具合防止のために、ユーザーの利用を想定した動作テストや、人為的誤操作を防ぎ常に一定の品質を保つスクリプト制御の自動テスト等を駆使することで、製品の円滑な開発を助長し、その過程で初めて明らかになる仕様の矛盾点を洗い出す職」といった感じでしょうか。

さて、実作業ですが、一日のほぼ6~7割は、自動テストの制作を行なっています。この自動テストは、デグレード防止に高い成果をあげることができます。テスト実行時に期待値と比較検証を行い、人では見逃しがちな細かな情報すべてを厳密にテストしてくれます。このテスト結果、不具合があればその状況をグループウェブ上に登録することによって、開発担当者がデバッグしていきます。この繰り返しを行なうことによって、APはbeta版からリリース版へと進化を遂げます。

こうした仕事は、先述の理由からAP開発において重要な役割を担いますが、開発工程の下流に位置していますので、テスト期間が工期とマネージャー次第で大きく変動します。この限られた時間の中で致命的不具合を含まないよう最大の効果を生むテスト計画を立て、実行することがこの仕事の醍醐味です。



## 数物情報系

## 「安心と笑顔作り」

アクサ生命保険(株) 宮本 大之

(情報科学科・H10年卒業)

情報科学科という学科を卒業したものの...ちょっと特殊かもしれません。理由は現在の仕事がソフトウェアやシステム設計というものは全く関係がないからです。そんな私も卒業当初は某ソフトウェア会社に勤めました。しかし、朝から夜中までパソコンの前にいる自分を見つめたときにムショウに単身で海外に行きたくなり、4年で退職しました。そしてモンゴルで7ヶ月ボランティアをし、帰国後、今のアクサ生命に入社させていただきました。帰国後は人と長い間付き合っていけるような営業の仕事をしたとは思っていましたが、保険会社に勤めたいとは一瞬たりとも思ったことはありませんでした。どちらかという、嫌なイメージだけでした。しかし、仕事内容はどうかという...全く想像していたものとは違うものでした。お客様(家庭)のライフプランによる住宅購入計画、教育費計画から家計に赤字をださないための貯蓄計画まで幅広いカウンセリングとアドバイスを行っていきます。そして、少しでも損をしないための保険をご提案させていただいています。常にお客様と一緒にしてお客様の安心を作っていますし、これほど人と一生涯つきあって行ける仕事はなかなかないと思います。人の笑顔に毎日接することができるこの仕事に就けたことを心から感謝しています。

最後に、情報と名のつく学科を卒業し、一般的には情報技術とかかわりの無いと思われる仕事を行っているとわれがちですが、私は物を対象としたシステム構築ではなく人間という柔らかで感情を持ったものに対する情報技術を駆使した仕事についていると考えることもできます。お客様の個々の人生というとてもつもないシステムをより良いものとするために、硬いプログラムコードやハードウェアの設計だけではとても追いつけない膨大な情報と向き合って日々努力しています。プログラムコードには組み込めない人のやさしさや不安、悲しみなどを理解してお客様それぞれの「笑顔」を生み出すほんとは大きなシステムにたずさわる人間として、私にかかわった全ての人に「安心」と「笑顔」をつくり出してもらえることを今の目標として頑張っていきたいと思ひます。

# 平成16年度菱実会総会の報告

去る8月7日に、理工学部同窓会(菱実会)の総会を行った。平成15年度の事業及び決算、平成16年度の事業計画及び予算が認められた。主な話題は次の通り。①平成15年度に作成した新「佐賀大学」の誕生～映像で伝えるこの1年～は会費納入者全員に配布する。②理工学部同窓会のホームページは全面的にリニューアルした。これを機会に同窓生と母校を繋いでいけるような魅力あるホームページにする。③平成16年度から、理工学部では学生表彰を行うことになっている。これは、各学年、各学科から優秀な学生を1名ずつ毎年選出することによって、学生の学習や研究意欲を高める狙いがある。理工学部同窓会では、これらの学生に『理工学部同窓会会長賞』として副賞を差し上げることになった。

現在、大学は大きな変貌をはじめている。そこに同窓会の果たす役割は大きいといわれている。今回、出席者が少なかったが、来年は多くの同窓生の出席を期待したい。(庶務幹事：穂屋下)



佐賀大学HP 卒業生の皆様へ 佐賀大学同窓会 理工学部同窓会

## 平成16年度 事業計画

### 1. 会報の発行

佐賀大学の近況および理工学部同窓会に関する活動状況を会員へ紹介するものとして、下記3種類の会報とサイエンティック(理工学部刊行)を送付する。

- 1) 佐賀大学広報紙の送付  
.....(年3回:1月、5月、9月)
- 2) 佐賀大学同窓会会報の送付  
.....(年2回:1月、7月)
- 3) 理工学部同窓会会報の送付  
.....(年1回:10月)
- 4) サイエンティックの送付  
.....(年1回:7月)

### 2. 会員の拡大

- 1) 同窓会の活性化のために会員数の拡大を図る。

### 3. 同窓会名簿の管理と作成

- 1) 理工学部同窓会会員名簿の管理と製作準備

### 2) インターネットでのサービス体制を目指した準備

4. 同窓会支部への支援
5. 理工学部就職懇談会への支援
6. ホームページ等を活用した各種情報の提供
  - 1) ホームページの充実(技術・研究など、同窓会に有用な情報の提供)
  - 2) 卒業生へのDVD配布
7. PR事業及び理工学部のPR
  - 1) 佐賀大学及び理工学部のPR
  - 2) 退官教授のインタビュー
8. 佐賀大学及び他学部同窓会との連携
  - 1) 佐賀大学と佐賀大学同窓会との懇談会
  - 2) 理工学部と理工学部同窓会との懇談会
  - 3) 佐賀県青春寮歌祭
9. その他の事業
  - 1) 在学同窓生への援助
  - 2) 卒業祝賀会への援助

## 菱実会の動き(平成15年10月～平成16年9月)

H15.10.31	理工学部就職懇談会への支援 都市工学科 講師	3名(卒業生)
H15.11.14	理工学部就職懇談会への支援 機械システム工学科 講師	2名(卒業生)
H15.12.19	理工学部就職懇談会への支援 機能物質化学科 講師	2名(卒業生)
H16.1.26	理工学部就職懇談会への支援 電気電子工学科 講師	2名(卒業生)

H16.3.24	平成15年度卒業へ新「佐賀大学の誕生」DVD配布
H16.5.28	理工学部同窓会役員会
H16.7.25	同窓生へ新「佐賀大学の誕生」DVD配布
H16.7.29	理工学部同窓会会計監査(平成15年度決算)
H16.8.7	理工学部同窓会総会・懇親会/佐賀大学「菱の実会館」

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。

**発行** 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会  
佐賀市本庄町1 佐賀大学内  
TEL 0952 23 1253 FAX 0952 25 5700  
http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

**発行者** 田中 正和(S48・化) **編集代表者** 池上 康之(S61・生機)